

# 枚方市PTA協議会〔中学校部会 母親情報交換委員会〕

と

## 枚方市教職員組合との懇談会（第2回）議事録

日時：平成14年12月1日 10:00～12:00

場所：枚方市教職員組合会館（3階）

出席者： 教職員 = 21名

枚方市PTA協議会実行委員

加藤（会長）、木村（部会長）、吉浦（副部会長）、渡辺（顧問、司会）

小西（子ども人権啓発委員会会長）、奥田、宮内（事務局）

中学校部会・母親情報委員会

中田（楠葉、書記）、源野（三中）、吉浦、浜口（招提北）、小西（杉）

多田、近藤（長尾）、藤澤、坂井（礎蛇）、高木（二中）、亀田、野村（枚方）

有本、澄川（東香里）、下村（中宮）、牧田（山田）

### 組合委員長の挨拶

- 前回の懇談会にて話題になったことを、もう少し踏み込んだ話をしたいと思えます。学校は私たちが管理し、運営しているという思いが強いのですが、そうではなく、「月～金曜日を預かっている」という風に考えれば、地域の方との関係も変わるのではないのでしょうか。その一貫としてこの会議を考えたいと思えます。

### 話し合われた内容

- ◇ 保護者からの発言
- 教師からの発言
- ◇ 今回は主に週5日制について話し合いたいと思えます。
- ◇ 授業時間確保によって、先生や子どもたちが疲れているようです。
- ◇ 自分の中学校では文化祭などの短縮はありませんが、学校によっては短縮しているところもあるようです。
- ◇ 昔と比べると、マラソン大会、クラブ対抗駅伝、球技大会、水泳大会、百人一首大会、凧揚げ...いろんな行事がなくなってきているようです。文化祭が2日から1日になり、宿泊行事では、スキーが2泊・林間学校が2泊・修学旅行3泊であったのが、無くなったか日数が減少してきています。今はこれに取り組む時間がほとんどありません。クラブひとつをとっても、できてい

ないことも多いのです。とにかく授業時間の確保（年間980時間）が必須となっています。始業式・終業式・テストの最終日にも授業をしています。

- 学校では教務の仕事をしていますが、外から見えない仕事です。とにかく980時間の授業時間確保を言われています。小学校であれば、担任一人で時間が組めるし、足りない部分を組みなおすことができます。これに対して中学校では、教科間の調整が必要で、大変難しい作業です。来年からは7時間授業の日も出てくるのではないかと感じます。
- 980時間の意味：年間、28コマ/週×35週。1年が約52週 - (マイナス) 休日が10週 - (マイナス) 祝日が2週 = 40週。行事等を考えると35週くらいとなります。実際には980時間に入れられない行事があるし、認められていない活動もあります。それでテストの後に授業もします。子供も大変、教師も大変です。数学は年間105時間ですが、35の倍数で組みやすいのです。これに対して、倍数でない教科を組むことが大変です。

◇ P T Aでコンセンサスが取れば（Pからの要求であれば）、学校として授業時数の柔軟性に対応が取れるのか。

- かなり難しいです。年度途中までいくと、各教科が足りない状態になっている学校もあります。教育委員会は時間数だけを管理しているようです。P T Aとして980時間でなくてもいいということは、要望してもすぐには通らないと思う。
- 自分の中学校では、授業時間確保に加えて、行事も積極的に行っており、総合学習も積極的に行っています。職業体験などにも取り組んでいます。しかしながら、現実には失われている時間が多く、例えば、子供と放課後に話す時間がありません。また、5日に40人との懇談を予定しますが、ほとんど困難です。担任としては、1対1でゆっくり話をしたいのですが、この時間が取れないのです。また、平日に出来ない分、土・日にもクラブ活動に行きます。表に出てくる行事は多いが、出てこないほんとうに大切な時間が取れていないのです。

◇ 勉強面も気になっています。2日で7教科のテストをするのはしんどいと思うのですが。大半の生徒がテスト前に勉強しますが、その時間が取れない。また、標準の進捗に対して遅れているようですが、きちんと授業を進めて欲しいと思います。

- 自分の学校では、期末テストは2日間です。進度については、週3時間では少ないのです。新しい指導要領になりましたが、実態は（量的に）変わっておらず、どうしても進度が遅れてきます。生徒の理解度を深め

ようと丁寧にすればするほど、遅くなります。解らせたという思いが強いほど丁寧になりますが、進度も気になり、暗中模索の状態です。

- 工業高校の体験入学に引率しました。高校では中学校でどれだけ削られているかをご存じありません。例えば、酸・アルカリの理解を深めるにはイオンを教えなければならないのですが、それが指導要領からは省かれています。解るようにするためには、教えなければならず、時間がかかります。定期テスト直後の授業は生徒の集中力もなく、時間の浪費のようにも感じます。

◇ スキー教室がなくなり残念に思っている。先生が大変な仕事をされているのはよく分かりました。しかし、これが来年以降も続くことには不安を感じます。不幸な状態だと思います。例えば2学期制などを採用するとか、別の良い方法を考えると、前向きの方策はないのでしょうか。

- あと2年耐えるしかないと思います。慣れるしかない。あるいは5年後に見直しがあるまで耐えるしかないでしょう。今は生徒も教師も実験されているような状況です。
- 2学期制については、授業内容を2学期風に組み直しをしているところもあります。始業式、修業式、試験を減らすことができるのはメリットがあります。個人的には2学期制には賛成。
- 大阪市内の或る学校では2学期制になっています。夏休み前に通知表が返ってこないし、懇談もありません。テスト範囲が広がるので、戸惑いが多いようです。時間を確保できるというメリットはあります。

◇ 解決策は？

- スキーを総合にカウントするとか、道徳的な講演会などの集会を道徳に認めるとかすれば、時間的に楽になります。特活はクラス活動と定義されていて、(学校)全体で行うと認めてもらえません。学校長も(個人的には)認める部分があり、教師の意見に賛成していても、上への報告としてできないところがあります。教育委員会は開示に耐えられないという理由で許可しないだろうと思います。
- 文化祭なども十分に総合学習だと思います。小学校の駅伝大会でも、すばらしい効果をあげている。そういう本当に教育的な活動はたくさんある。

◇ 教育委員会の開示対象は議会ですか？

- 市議会で(議員が)教育委員会に授業時間確保を聴きます。(そこでの回答に苦慮しないために)教育委員会は学校長に、学校長は教師に要求す

ることになります。

- ◇ 学校長に裁量権があるのでは？
  - 裁量権は本来，学校長にあります。実際には暗黙に（間接的に）教育委員会が制限を加えている状況です。すなわち，裁量権を放棄している状態にあります。
  
- ◇ 昔の校長先生は裁量権があったようです。今は（教育委員会に）言われっぱなしで、裁量権はない（と感じる）。
- ◇ 情報開示の中で，校長がどう裁量権を持って運営するか。校長会と保護者との話し合いも持ちたいと思います。保護者は敵ではなく，味方であることを認識してもらって，自信を持ってもらいたいと思います。
  
- ◇ 学力はほんとうに低下しているのでしょうか？（十数年前の）荒れていた頃に比べれば今は勉強していると思いますが。常識的には昔より下がっているはずはないと思います。そんなに学力を上げなければならないのでしょうか。
  - 勉強している時間数は増えています。覚える力はあるですが，考える力は落ちているように思います。学力を何で捕らえるか（学力の有る無しをどうやって決めるか）を変えないと，測れない。
  - 夢を持っている子供が少なくなっています。家庭で夢のある話をしていないのではないのでしょうか。行事をさせれば，昔と同じにやります。勉強になると，自分はここまでという姿勢になっています。1問1答形式の学力は落ちていないと思います。
  - 読解力が落ちているようです。漢字が読めない。活字を読までるのが必要でしょう。これは家庭の仕事です。「理由（わけ）を考えること」が必要です。「何でそうなるのか」を考えさせることが大切だと思います。
  
- ◇ フリーターになっている人が多い。将来に不安を持っているから勉強に意欲が出ない。しかし、時間確保のため興味付けをできない状態にあります。だからこそ、行事が大事だと思います。保護者がこれをしなければならぬと思うが、慣れるしかない、と諦めるのではいけないと思う。
  - どんなものも，授業にするには指導案が必要です。大掃除を総合学習にするにも指導案が必要。内容的に総合学習，道徳として組み込むことができるものもあると思います。今の定義に沿うと困難なものもあります。
  - 校長会と保護者との話し合いが大切ではないのでしょうか。議会で話を持っていくよりも，校長に保護者というバックアップがあることを知ってもらうことが重要だと思います。

- 今の授業にはテーマ性や形が必要です。単純にはいかないところがあります。

◇ 「心のノート」について

- 絶対に使って道徳をしなければならない、という上からの指示には疑問を感じる。

◇ 授業参観（「心のノート」を道徳の時間に使用）を見たが、やる価値はないと思った。

- それを作った人の話を聞いたが、そのようなやり方では効果は出ないと（講演で）おっしゃっていました。

◇ 先生のこの会議の意見を（一般保護者に）届けることはできないのでしょうか。組合として大きな力で変えていくことはできないのですか？解決の良い方法をご存知の先生が変えていくことができないのは口惜しいです。

- 教育委員会と話し合いをする機会がありますが、なかなか話が通らない。組合としては話をしています。努力をしていないわけではないのです。
- いろんな行事を授業数にカウントするようにお願いしています。

### 3. 会長のお話

受験勉強の弊害として、点を取るために「分かることから取り組む」という癖がついていると、或る大学の教授が話していました。分からないことから取り組む姿勢を持ちたいです。同時に、「分からない」ことに取り組む保護者でありたい。先生は「分からない」ことに取り組む子供を育てて欲しいと思います。

#### 結論，決定事項

教育委員会からの980時間必達指示が、生徒にとって必ずしも良い方策となっていないこと、学力向上を実現する方法ではないことが、教員側と保護者側で一致した意見でした。決められた授業をこなすだけでなく、文化祭・体育祭などの行事を通じて（「経験」という）勉強できることが多いことを、共に認識しています。教師と生徒に時間的なゆとりを作ることが重要であると考えます。そのことが結局は本当の学力向上につながるのではないのでしょうか。

1. 新しい制度に慣れるしかないという諦めの気持ちが多いが、もっと前向きな、具体的な方策を見つけていくべきである。
2. 本当に役立っている、いろいろな活動（文化祭，体育祭，課外活動など）を授業時間として認めてもらえるための具体的な打開策を考えていくべき。これは根本的な解決ではないが、現状を改善する手段である。

### 3. 今後の展開

- このような話し合いの内容を，出席されていない教師にも伝える。
- 保護者は，本日の話し合いの内容を実行委員会や保護者に語って欲しい。
- 教育委員会との懇談が予定されているので，ここでも意見交換をする。
- 校長会と保護者との話し合いが実現できるように調整を続ける。